■保田與重郎　　評論家。〈軍国主義〉時代に日本の美を称揚して一世を風靡，〈敗戦〉で文壇から忌避されるも，復帰した。
やすだよじゅうろう
韓国併合・・1910＝　　現在の奈良県桜井市で屈指の素封家の長男に生まれ，

明治天皇没・1912＝ 2歳：

第一次大戦始1914＝ 4歳：｛聖公会｝の幼稚園に入る一方，屋敷が全面的に改築され，

ロシア革命・1917＝ 7歳：先進教育の実験校に指定されていた桜井尋常小学校に入学，

ﾍﾞﾙｻｲﾕ条約・1919＝ 9歳：
　　裕福で見識ある父のもと，祖父の影響を大きく受けて育ち，
原敬首相暗殺1921＝11歳：

関東大震災・1923＝13歳：卒業して県立中学校に入学，

　　〈大正デモクラシー〉と〈軍国主義化〉という矛盾した教育環境の中，優れた教師にも恵まれ，

金融恐慌・・1927＝17歳：
本格政党内閣1918＝18歳：_大阪高校文科に入学すると，直に校友会誌に論文を発表して注目され，
　　_竹内好ら後に名を成す多くの人材と級友となり，
海軍軍縮条約1930＝20歳：_早くも｛思想｝に論文を発表する。
満州事変・・1931＝21歳：_東大文学部美学美術史学科に入学すると，
五一五事件・1932＝22歳：_伊東静雄らと雑誌｛コギト｝を創刊，

帝人疑獄事件1934＝24歳：_卒業。
芥川直木賞始1935＝25歳：*亀井勝一郎らと｛日本浪曼派｝を創刊，以後その中心的指導者として，月平均10本もの評論を書いて活躍，
二二六事件・1936＝26歳：知りあったばかりの棟方志功の装幀で「日本の橋」を処女出版，「英雄と詩人」，
日中戦争始・1937＝27歳：*｛池谷信三郎賞｝を受賞して文壇に登場，以後次々と創作出版し始め，
健保+総動員 1938＝28歳：_師と仰ぐ佐藤春夫と朝鮮・満州を旅行後，国粋主義的色彩の濃い「満彊」を発表し，「戴冠詩人の御一人者」で第2回北村透谷賞を受賞。｛日本浪曼派｝が廃刊となり，大阪の旧家の娘と結婚して東京に所帯を持った。
　　_その後も「後鳥羽院」「近代の終焉」など次々と出版して"日本主義者"の代表的存在となり，プロレタリア文学運動が衰退して行く〈戦時体制〉下の文壇を席巻，
大政翼賛会・1940＝30歳：尾崎士郎らの｛日本主義文化同盟｝に参加，
日米開戦・・1941＝31歳：祖父が死去。_｛短歌維新の会｝を結成して｛ひむがし｝を創刊，
年金+総武装 1944＝34歳：_毎月欠かさず書き続けた｛コギト｝が用紙事情の悪化で遂に廃刊となる。史観「鳥見のひかり」を発表，一時重病となり回復するも，
敗戦・・・・1945＝35歳：_応召で中国に出征後まもなく発病して軍病院で〈敗戦〉を迎え，
新憲法公布・1946＝36歳：_引揚げ，生家に戻って帰農，ジャーナリズムが手の平を返したように背を向ける中，今東光・檀一雄らが訪問してきて交流するも，戦前の国家協力の代表者とされて，
極東裁判決・1948＝38歳：_公職追放の処分を受けた。
三大事件・・1949＝39歳：_信奉者奥西保らのの尽力で雑誌｛祖国｝を創刊，匿名で執筆を開始，
朝鮮戦争始・1950＝40歳：
独立回復・・1951＝41歳：*追放解除となるや，エッセー集「日本に祈る」を出版して文壇に復帰，続けて「絶対平和論」を出版，以後堰を切ったように書き始めるが，若い時からの胸部疾患と貧血で入退院を繰り返すようになり，
55年体制始・1955＝45歳：_｛祖国｝の廃刊後，日経連の支援を得て｛新論｝を刊行，
国連加盟・・1956＝46歳：_廃刊となると，
なべ底不況・1957＝47歳：_歌誌｛風日｝を発刊，奥西らの教育図書の出版業｛新学社｝の創設を支援し，その生きかたも大きく変貌。
ｲﾝｽﾀﾝﾄﾗｰﾒﾝ・1958＝48歳：_京都・鳴滝に一個の芸術品ともいえる"終の住処"を建て，〈高度成長〉政策の矛盾やモラル崩壊の行く末を見とおし，世の中に背を向けて隠遁者の生活を実践し，時代の潮流を離れた岡潔ら"畸人"たちと交流，
安保闘争・・1960＝50歳：

TV宇宙中継始1963＝53歳：｛新学社｝から「規範国語読本」を発行，
東京ｵﾘﾝﾋﾟｯｸ 1964＝54歳：_「現代畸人伝」などで，再び文壇に復帰，

美濃部都知事1967＝57歳：「日本浪漫派の時代」，

大阪万博・・1970＝60歳：「保田与重郎全集」が刊行開始となり，

石油ショック1973＝63歳：*随筆「文人の真実」などを著わすなどしたが，
角栄金脈辞任1974＝64歳：父が死去，
ｸｱﾗﾝﾌﾞｰﾙ事件1975＝65歳：母も死去する間，_奈良や京都の遺跡顕彰に情熱を燃やし，
田中角栄逮捕1976＝66歳：_以降｛落柿舎｝庵主を務め，

革新大敗北・1979＝69歳：_｛財団法人落柿舎保存会｝｛社団法人義仲寺史蹟保存会｝の理事長も兼任して，

・・・・・・1981＝71歳：_没した。

吉見良三「空ニモ書カン」，「没年日本史人物事典」，平凡社百科事典，